

# とやま 保険医新聞

2010年 富山県保険医協会  
3/5 富山市桜橋通り6-13、フコクビル11階  
第321号 (076) 442-8000、FAX 442-3033  
発行人 矢野博明  
(年間購読料6,000円・一部500円)

## 主な記事

- ・医科今次改定のポイントと説明会案内 (2面)
- ・歯科今次改定のポイント (3面)
- ・経営税務講習会、個別相談案内 (3面)
- ・歯科リレートーク (4面)
- ・案内「6/17中村哲講演会」(4面)

## 岩城 次期 県医師会長と懇談



県単医療費助成や在宅医療にも話が及んだ矢野協会会長(左)と岩城県医師会長(右)

三月四日(木) 矢野会長は、富山県医師会長に選出された岩城勝英氏を県医師会館に表敬訪問しました。岩城県医師会長は、矢野会長の祝辞に対し「皆様の協力をいただけて、重責を果たしたい」と応え、協会の活動にもふれながら「同じ医師仲間でもあり、連携し協力できることはたくさんあると思う」と述べました。



保団連第42回定期大会が、一月三十、三十一日の二日間わたって東京・都市センターホテルで開催され、矢野会長と太田副会長が出席しました。議事に先立ち加盟団体の表彰が行われ、当協会は医科の組織率アップで全国第一位、同じく会員増加数で第二位の表彰を受けました。これは昨年の三十周年記念事業を二〇〇人の会員で迎えようと、役員や事務局が一丸となって拡大運動に取り組んだ成果です。

## 医科の組織上昇率が全国一位に 保団連第42回定期大会で富山協会が全国表彰

一方、医科は医師会の説明会とは別に、三月二十四日(水)午後・富山会場、二十六日(金)午後・高岡会場で開催されます。

東海北陸厚生局富山事務所は、県内歯科医療機関に対し、二月二十六日付「平成二十二年診療報酬に伴う集団指導の実施について(通知)」で、三月二十五日(木)夜に、県歯科医師会と共同開催する集団指導(改定時説明会)に出席するよう通知しました。

### 確認事項 (医科・歯科共通)

- (3/2 富山事務所と協会事務局の懇談より)
- ・出席は任意だが、できるだけ出席してほしいと思っている。(強制ではない)
- ・都合により出席できない場合でも、法律上罰則規定はないし、不利益な取扱いなどはあり得ない。
- ・当日、厚生局が配布する資料は、厚労省が作成したスライドを印刷したものを使用し、通知集など詳細なものは予定していない。
- ・欠席医療機関には資料を後日郵送する。そのために出席医療機関には「整理票」を提出していただくことにしている。
- ・欠席する場合でも、厚生局への事前の申し出は必要ない。

## 東海北陸厚生局の「集団指導」 出席は任意、欠席しても罰則なし

協会にはこの通知をめぐって会員から「集団指導とあるが、強制なのか」「出席できない場合、罰則はあるのか」など、多くの質問が寄せられています。協会は、直ちに厚生局に届出を済ませ、今回の集団指導の位置づけや医師の出席義務などについて確認しました。

## 歯科 新点数検討会

とき 3月24日(水) 7:30PM~

ところ フコク生命ビル 2Fホール

講師 保険医協会講師団

テキスト 『2010年改定の要点と解説』  
(会員価格1,000円、ただし参加医療機関1部無料)

参加対象 会員医療機関

\*まだ会員でない先生はこの機会にご入会ください

### 過去の表彰歴

1981年	医科/率で第2位
	歯科/率で第2位
1982年	医科/率で第2位
	歯科/率で第1位
1983年	医科/率で第1位
1984年	医科/率で第1位
	医科/数で第1位
1986年	医科/率で第1位
1993年	医科/率で第1位
2006年	医科/率で第2位
2010年	医科/率で第1位
	医科/数で第2位

議事に入ると診療報酬改善や患者負担軽減、保険でよりよい歯科医療、レセオナライン、指導監査問題、自主共済を守る課題など、中央団体らしく多岐にわたる発言が続きました。矢野会長の発言は、団体表彰を受けたお礼を述べた上で、「富山協会は組織率十%でスタートしたが、日中の答弁がありました」との発言がありました。これに対し執行部からは「保団連も医科七十%、歯科六十%の組織目標を掲げており、非常に心強く思う」との発言がありました。

医師と歯科医師の関係をみると、個々には交流はあると思うが、医師会と歯科医師会との間にはこれまで一切なかったように思える。専門分野が異なるとはいえ、例えば耳鼻咽喉科と泌尿器科は対象とする臓器もちがうが、歯科のような対応ではなく、医科の中の専門分野の一つと考えられている。歴史的になぜ歯科のみ医科から分離されなければならなかったのか浅学非才でわからないが、これからの時代大いに連携を強めてゆく必要があるだろう。

私は高齢者を中心に通院困難な患者さんに訪問診療を行っているが、そのなかで歯科領域の疾患により、在宅ケアに支障をきたしている高齢者をたくさん経験している。たとえば歯周炎、顎関節症、入れ歯や咬み合わせの問題、また口腔ケア全般に渡って問題が山積している。然るに私自身も歯科医師とのスムーズな連携ができていないのかと聞かれると胸を張れないというのが実情だ。保険医協会は医師・歯科医の団体として、唯一交流が行える団体であり、今年はおたがい連携を深め、交流することによって在宅医療の新しい第一歩にしたいと願っている。(H・Y)